



2026
No.516

障害者の ゆたかな未来をめざして

1

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん



「肉まん風鏡餅」

つゆはし作業所 萩田達也さん
※紹介が9ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 年頭あいさつ P2
- ▶ 就労移行支援の10年の取り組み P3~5

2025年12月15日 毎月1回15日発行 一部200円(法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

〒457-0852 名古屋市南区泉栄通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

[ゆたか福祉会](#)

検索



愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

年頭あいさつ

理事長 後藤 強

新年、おめでとうございます。今年は六十年に一度の「丙午（ひのえうま）」。情熱と行動力で道を切り開く縁起の良い年とのこと。事業に関係する方々の一年が、こうした機縁に恵まれることを願っています。

ゆたか福祉会は昨年、第7期総合計画を策定。今年は5か年計画の2年目になります。4月には、緑区平手に建設中の新しいグループホームが、よいよ開所。7月頃には、南区内に自前のホームを新築し、現在アパートを借りて運営しているグループホームの仲間たちの転居を予定しています。こうした施設整備に加え、利用者支援の更なる充実や人材の確保と育成、地域や関連団体との連携・共同の取り組みなど、計画に掲げた各課題についても本格的に取り組みを開始していく年になります。あらためて、職員はじめ関係者の皆さんとの協力と奮闘をお願いするものです。

さて、今年は「障害者自立（総合）支援法」が施行されて20年の節目の年です。この間、障害のある人た

ちが利用可能な制度や、事業所の数はたしかに増えました。しかし現場では職員不足が急激に加速。とても深刻な事態となっています。ゆたか福祉会も例外ではなく、そのしわ寄せがいくのは結局、利用者ということになります。命と暮らしを支える重責を担っている職員が、「誇り」をもって働くだけの正当な対価を、国は払って当然です。年に前倒しされた報酬改定では、文字通り「他産業とそん色ない」賃金水準となるような改定を、強く求めていきたいと考えます。

今年は「障害者権利条約」が、国連で採択されて20年目の年でもあります。日本政府が条約を批准した（2014年）前後の高揚感はさすがになくなりました。が、条約のめざす差別のない社会の姿は、未来への希望と展望を、今でも明瞭に指示してくれています。困難な今だからこそ、あらためて条約を学びなおしてみる、そんな一年にもしていけたらと思います。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



ワークセンター・フレンズ星崎

就労移行支援の

10年の取り組み



1はじめに



訓練室

フレンズ星崎の就労移行支援事業は、2013年7月に開設し、2018年10月からは就労定着支援も始めました。この10年間を振り返って、これまでの学びと現状の課題をまとめます。

私たちの強みは、生活介護と就労継続支援B型を併設していることが就職を目指すきっかけになりました。就職が難しかった方の受け入れ先として機能するなど、多様な働き方を事業所全体で支えることがあります。

また、定員6名、職員2名という小規模な体制も、私たちの大きな特徴です。利用者一人ひとりと深く向き合い、ていねいに信頼関係を築くことで、就職活動やその後の職場定着の支援も効果的に進めることができます。

10年

2これまでの歩みと実績、そして問題意識

フレンズ星崎の就労移行支援事業を通じて、これまでに約32人が一般就労しています。そのうち15人は現在も働き続けており、最も長い方は11年以上にわたり、安定して就労されています。

就労移行支援を利用したすべての方が、一般就労に進んだわけではありません。アセスメントを通じて、その方の得意なことや特性をふまえた結果、より自分にあつた働く場としてB型やA型を選んだケースもありました。



この併設体制は、B型の利用者が就職を目指すきっかけになりました。

また、就職したもの退職にいたった方もいます。退職の理由は、体調の変化や職場環境の変化、意欲の低下などさまざまです。就労移行支援へ戻り、再チャレンジされた方もいれば、B型やA型で新たな目標に向かって努力されています。

る方もいます。私たちは、そうした方々にとって「いつでも戻ってこられる場所」であることが大切だと思っています。

利用開始時の平均年齢	平均利用期間	就職者数	職場定着率(半年間)	主な業務内容
31歳	14か月	約32人	84%	介助補助、清掃、事務補助、軽作業など

◆小規模だからこそ

可能なオーダーメイドの

訓練プログラム

「一般就労をしたい」「もっと収入を得たい」といった思いで、就労移行支援を利用する方は多くいますが、働くことのイメージが漠然としている方も少なくありません。私たちは、実際の職場に近づけた訓練プログラムで、希望する仕事について具体的なイメージを持てるよう支援してきました。

たとえば、飲食業を希望する訓練生には調理補助の実習を、事務補助を希望する訓練生には内線電話の取次ぎやデータ入力などの体験の機会を設けました。個々の希望や特性に合わせて、柔軟にプログラムづくりができるのは小規模な現場の良さだと感じています。

また、フレンズ星崎の多機能型事業所としての強みを活かし、併設するB型や生活介護の現場を活用してアセスメントを行うこともあります。訓練生と支援者が一緒にになって、より、その人についた働き方を考えることができます。

◆法人の就労移行支援

事業所として

フレンズ星崎のB型現場から就労移行支援へ移り、さらに一般就労へと進んだ方は、比較的安定して就労生活を送っておられます。

B型現場で基本的な労働習慣を身につけてきたことが土台となり、次のステップにつながったからだと思います。

しかし、ゆたか福祉会の就労継続支援事業所では、一般就労を目指す利用者が少ないというのが現状です。いつたん事業所に入所すると、そのまま、そこで落ち着いてしまう傾向もみられます。私は、利用者が限られた情報の中でも自らの可能性を諦めてしまうことは、利用者が限られた情報の中での自らの可能性を諦めてしまうことのないよう、積極的な情報提供が重要であると考えています。

多様な働き方があることや、就労にかかわってさまざまな支援が受けられることを知つてもらい、新たな一步を踏み出すきっかけを作つていただきたいと思っています。

3

Aさんのエピソード



車業務をおこなうBさん

明会に参加したり、実習に取り組みました。しかし支援者が不在の

場面では、トラブルが繰り返されました。話し合いを重ねて、団体

の中で働く力を身につけるために、法人内のB型事業所で1年ほどトラブルを起こしていたこともあり、ご家族からの希望で就職にむけて就労移行支援を利用することになりました。

◆就労移行支援の一回目の利用

Aさんはまわりの人を気に掛けることができ的一方で、余計な一言でトラブルを引き起こしてしまうことがあります。集団経験の乏しさが影響している様子でした。そうした人の関わり方を学ぶことをテーマしながら企業見学や説

Aさんはまわりの人を気に掛けることができ一方で、余計な一言でトラブルを引き起こしてしまうことがあります。集団経験の乏しさが影響している様子でした。そうした人の関わり方を学ぶことをテーマしながら企業見学や説

◆B型利用から1年後、再び就労移行支援へ

B型から再び就労移行支援に戻ったAさんは、興味のあるPC作業に焦点を絞って訓練を行いました。Aさんの努力の結果、MOSの資格を取得することができます。業務を遂行する力は充分ではないものの、「働くこと」への自信がついたようでした。そのころには「福祉現場の支援員になりたい」と自分の目標を口にするようになつていました。

Aさんの意向を受けて、生活介護現場で職員体験を行いました。でも利用者と上手に接することができません。人の関わりで躊躇します。細かく目標設定をするなど試みますが改善せず、トラブルが続いてしまいました。A



パソコンの入力訓練にのぞむ Cさん

他の機関から障害者入所施設の職員募集の紹介があり、実習を行いました。あきらめない気持ちが就職に繋がったのです。

ただ就労が始まると、記録や報連相の漏れ、利用者とのトラブル等課題が表出しました。そうして課題が起きたたびに Aさんと一緒に取り組みました。あきらめない気持ちが就職に繋がったのです。

Aさんのように就労継続支援と就労移行支援を行なう事例もあります。本人の気持ちをていねいに汲み取りながら、個別にプロセスを調整することで支援者とも信頼関係が築かれていくのだと思います。なにより本人の意向を大

きには対人援助の仕事は難しいと思われ、寿司屋や塗装屋といった他の職種でも実習を行いました。そうしたなかでも、Aさんの「福祉職に就きたい」という気持ちは揺らぎませんでした。

◆念願の福祉職に

他の機関から障害者入所施設の職員募集の紹介があり、実習を行いました。あきらめない気持ちが就職に繋がったのです。

利用も提案しましたが、利用はされませんでした。

業務内容を変更したもののがまくいかず、話し合いを重ねて最終的に退職することになりました。Aさんは、最後にすつきりした表情で「福祉職は合いませんでした」と振り返りました。実際に「経験」をすることで理想と現実の違いを学ぶこととなり、この「経験」が今後の土台になるのではないかとも思います。

Aさんのように就労継続支援と就労移行支援を行なう事例もあります。本人の気持ちをていねいに汲み取りながら、個別にプロセスを調整することで支援者とも信頼関係が築かれていくのだと思

緒に振り返りをして改善策について助言をしました。時には職場へ出向き、スタッフとも話し合いを行うこともありました。記録は徐々に改善が見られましたが、福祉現場特有の突発的な事態にうまく対処できない様子があり、改善は難しく思えました。ジョブコーチの

事にしながら回り道や挫折もふくらんで、その経験を支えていきます。

Aさんはまだ20代です。再び就労相談があれば、この経験をふまえながら、気持ちに寄り添った支援をしたいと思います。

4 今後の展望と課題

Aさんの事例からもわかるように、就労支援の役割は、就職した後も継続します。利用者がその職場で長く働き続けられるように職場への定着をサポートします。また、退職やキャリアの再スタートは決して特別なことではありません。私たちは、支援現場を「いつも戻ってこられる場所」として整え、利用者が安心感を持って再チャレンジできる環境づくりを進めしていくことが重要だと考えます。

ワークセンターフレンズ星崎
鷹尾圭介・鈴木拓也・山崎利浩

害のある方が自分らしい働き方を見つけ、健やかに長く働き続けられるよう、引き続き取り組んでいきたいと思います。

きの煩雑さや扱い手不足も心配されています。
ゆたか福祉会としても、就労アセスメントや企業就労の支援の領域で職員の専門性を確立し、機能をいつそう強化していく必要があります。作業所や企業のなかで障



暮らしの中に彩りを

11/15

土

ゆたか作業所 ふれあいまつり



11月15日(土)快晴の中、第12回目となる「ゆたか作業所ふれあいまつり」が、ゆたか作業所駐車場等を使い、開催されました。

今回は「コロナ以前のおまつり企画にしたい」という思いで準備を進めました。子どもたちに大人気のふれあい動物園、子ども縁日コーナー、ステージ企画、そしてリサイクルバザーに産直市と、どの企画も議論を重ね、昨年以上に工夫を凝らしました。

当日は絶好のおまつり日和。開会前から地域より多くの皆さんのが来場され、大盛況。ねらい通りに、多くの皆さんに楽しんでいただくことができました。ゆたか作業所の仲間たちも、自分のおこづかいと相談しながら、買い物に食事、縁日ゲームと、しっかり楽しめたようです。

課題はコロナの空白期間もあり、こういった企画準備を経験していない職員が大半を占めていることです。年を重ねるごとに会場設営等、ベテラン職員の負担も重くなっています。「おまつりは続けたい！」思いはひとつです。色々と工夫しながら、今後も続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、このふれあいまつりに対して、広告協賛、模擬店出店、ステージ参加等、本当に多くの皆さんからご協力やご支援をいただきました。

ありがとうございました。

ゆたか作業所 所長 吉田 博

10/23

木

ふれあい共同作業所 ハロウィンイベント

当日作業所では、“ハロウィン”と“スポーツの秋”を合わせた“ハロウィン運動会”を全体行事として開催しました。

午前はなかま一人ひとりが、仮装するハットやマント等ハロウィンの塗り絵、手形、その他好きな装飾を貼り付ける形で作成しました。貼り付ける位置や量によって、それぞれ好みや個性が表現されていたように感じました。

午後は会場を「星崎コミュニティセンター」に移して開催。仮装をしながら「ハロウィンキャラクター集め」「お面を被った職員は誰?! クイズ」「車いす足漕ぎリレー」「椅子に座りながら足で新聞紙を巻く」などのオリジナル競技を行いました。現場を超えて「がんばれー！」「すごい！」と声を掛ける姿がみられ、一緒に競技を行う中で他現場との交流も、より活発にみられた印象でした。

他現場のなかまや職員と交流することは、事業所内でありながらその方のコミュニティ、つながり、相手への理解を広げる一つの機会であると感じています。なかまの方々からは「楽しかったわ～」「またやりたいね！」などのお声もいただきました。今後も現場の垣根を超えた交流機会などを設定し、作業所内においても多様な“つながり”を大切にしていくことができたらと思います。



ハロウィンの仮装で楽しんでいます

ふれあい共同作業所 上野 美香



毎年恒例の
自治会連合会 理事長交渉



12月3日（水）法人本部大会議室にて、「理事長交渉」を開催しました。当日は後藤理事長をはじめ、利用者28名、オンラインを含めた職員16名の方が参加されました。

自治会連合会では、みんなで決めた規約の第4条に「2年に一度『理事長交渉を行います』」が定められています。この取り組みは1992年の会設立以来続く、大切な取り組みとして位置付けています。障害当事者であるなかまた

ちが、自分たちの施設を大切にするからこそ、より良い環境を築くために声を上げる機会であり、ゆたか福祉会と一緒に考え、「利用者の権利保障とサービス改善」を直接訴える話し合いの場として継続してきました。

13事業所が一堂に会すので、直接訴える出来るのは、各事業所3分と短い時間でした。限られた時間の中で思いを伝えるため、事前に準備した資料を用い、要求内容とその理由をなかもたちの声で直接、後藤理事長へ届けました。

山崎 真由美

「準備から当日の様子まで」

役員会や連合会にて何度も話しあいを行い、各事業所の要望を事前に、「職員」「給料・仕事」等6項目に分けて作成。その中で理事長に一番伝えたい内容を伝える形で当日に臨みました。オンラインにて1か所、現地にて12か所が本部

に集結。会場はZOOMが主だったコロナ禍では味わえない熱気で溢っていました。

3名の役員が主体的に進行。はじめに、後藤理事長より挨拶。その後、事業所ごとに「りじちょうについたこと」を発表しました。

プレートを持ってわかりやすく理事長に提示したり、パワーポイントを活用して仲間と職員が息を合してきました。

日々の仕事や暮らしに根付いた説明する要望に、「なるほど」と何度も頷き、仲間のパワーを実感。だんだん小さくなる仲間を若手職員がサポートする姿があつたりとたくさんの「みんなのおもい・つながり」で、終始進みました。

最後に後藤理事長からは、仲間に向かい、誠実に応えていくことの大切さをあらためて学ばせて頂きました。

日々の仕事や暮らしに根付いた説明する要望に、「なるほど」と何度も頷き、仲間のパワーを実感。だんだん小さくなる仲間を若手職員がサポートする姿があつたりとたくさんの「みんなのおもい・つながり」で、終始進みました。

2年に一回の理事長交渉。仲間の要求・願いを直接伝える場として、今後も大事にしていきたいと思います。

佐野 浩之



懇談を終えて

理事長 後藤強

「コロナで作業所が閉所になつたけど、コロナは災害です。休みになつた分の給料を保障してほしい」「作業所を利用する仲間が減ってきて売り上げが落ちてきている。利用する仲間を増やしてほしい」「交通量の多い作業所の前に横断歩道がほしい」…等々。

日々の仕事や暮らしに根付いた説明する要望に、「なるほど」と何度も頷き、仲間のパワーを実感。すぐに対応できることは限られてますが、ひとつ一つの願いに丁寧に向き合い、誠実に応えていくことの大切さをあらためて学ばせて頂きました。



いのちのとりで裁判 10.28 決起集会

参加者の感想

ゆたか通勤寮 後藤 麻友香

「集会から学ぶ
～知ること 伝えること 続けること～」

今決起集会には、オンラインで 600 人もの人達が参加されていました。私自身、これまで活動の現場には実際に参加したことがなく、今回が初めて生で、当事者の声を聞く機会となりました。

生活保護については、世間的に「良くない」「急

けている」等の意識があり、又、実際に聞いたこ

ともあります。そのステイグマがありながらも、人としての生きる権利を主張するために、名前と顔を表にして行動している人たちの姿に、遅しさを感じました。

実際に判決が下ってから、12年もの時間が経過しているにも関わらず、引き下げた分の保護費の保証も無く、多くの人達が現在も権利を主張して、戦い続けています。通勤寮にも生活保護を受給して生活を送らざるを得ない人がいます。「他人事ではない」という意識を忘れず、人としての権利を守るために、日々できる事を微力ながら取り組んでいきたいと感じました。

当事者の声は、会場全体の共感と怒りを呼び、たたかいを続ける決意を新たにしました。最高裁勝訴に基づいて原告の主張を認め、誰もが尊厳をもつて暮らせる社会の実現に向け、連帯の輪が大きく広がった集会となりました。

ライフサポートゆたか 今治信一郎

ゆたか生活支援事業所尾張 西沢 淳

「集会から学ぶ
～知ること 伝えること 続けること～」

集会を前に、この裁判の経緯と最終判決以後の焦点について、事業所内で学習を行いました。2013年から3年間での各種生活扶助基準の引き下げがいかに受給当事者を苦しめるものであったのか、それゆえ『いのちのとりで裁判』が起こされ、最終判決を終えながらも、今なお課題等を残していることへの学びがありました。

会場はほとんどの席が埋まり、当事者アピールとして、遠く北海道から参加されている団体もありました。始まる前から気持ちが高ぶってきていた自分がいました。基調報告では、事前学習では知れなかつた最高裁判決（原告勝訴確定）後の内容が話されました。「国は専門家による委員会を設置したが、そこでは未だ生活保護費を減額していく」との話には、大きな憤りを感じました。

原告からの直接発言では、今の専門委員会への疑問と批判や、北海道の参加者からは冬場での困り事など切実な話もありました。「いのちのとりで裁判はまだ終わっていない!」「運動」「声を上げる!」「これからもたゆまず続けていく!」ことの大しさが強く伝わってきました。



「肉まん風鏡餅」

～つゆはし作業所～

蓑田 達也さん

表紙の作者紹介

蓑田さんは、毎日休憩中に持参している毛糸で編み物をされているほど、編み物が大好きです。最近は、丸い円の形を編んでいることが多かったので「何か作品ができないか」と思い、「鏡餅を作つてみない」と声をかけさせていただきました。

「こうしてみる?」「これはどう?」というやり取りを通して、蓑田さんとたくさん意見を出し合いました。ひとつひとつの素材は、手先が器用な蓑田さんの手にかかるれば、すぐに想像以上のものができあがっていきます。

職員も驚きの連続でした。仕事をしている中で出てくる廃材や、いただき物を使って、カラフルで蓑田さんらしさ全開の素敵な作品ができあがりました!

2026年が皆様にとって素敵な一年となりますよう

河合 みづほ

檜山 細川 渡邊 金原 市川 太田 小野 野村 宮川	統子					
桂子 志喜子	志麻衣子	匡志 恵子	成誓 敏弘	文男		
伊藤 勝久	金田 久美子	清水 清水	堀池 石川	端川 幸代	畠山 由美	水谷 曜子
						高橋 温美

順不同
敬称略

(11月19日～12月9日)
手続き分

賛助会員新規加入者
更新者ご芳名一覧

富田 健津男

一般寄附（12月）

広報・516号

2026年1月号(2026年1月15日発行)

定価 1部 200円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集／社会福祉法人ゆたか福祉会

印 刷／株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間 1口 6,000円、

賛助会員（個人 1口 3,000円、企業団体等 1口 5,000円）

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・あいち銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

※初めてお振込をいただく方は、お手数ですが
法人本部(052-698-7356)へご連絡ください。



日誌

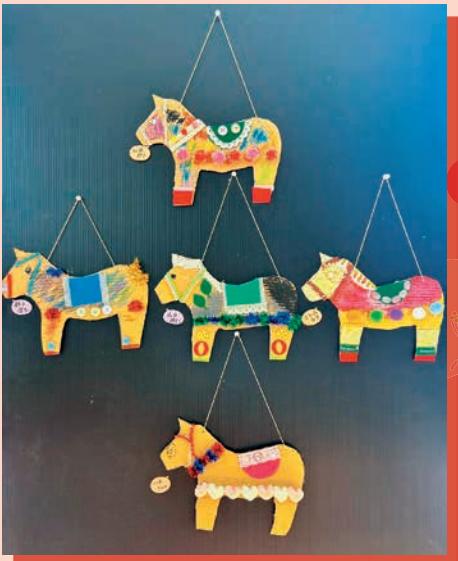
11月

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 1日(土) | 職員研修 |
| 3日(月) | トータル人事システム検討委員会 |
| 10日(月) | 事業運営推進会議 |
| 11日(火) | 保護者連合会定例会 |
| 12日(水) | 法人安全衛生委員会 |
| 13日(木) | 第4回口頭弁論 |
| 14日(金) | 新所長研修 / 権利擁護・虐待防止会議 |
| 15日(土) | ゆたか作業所ふれあいまつり |
| 18日(火) | 主任フォローアップ研修 /
きょうされん愛知支部 名古屋市行政懇談会 |
| 22日(土) | 理事会 |
| 24日(月) | 研修部会議 |
| 25日(火) | 援助担当者会議 |
| 26日(水) | 副所長会議 |
| 28日(金) | 広報・ホームページ編集委員会 |

みのり共同 作業所



けいさぎょう班



えがおひだまり班



久野 ひとみさん



山田 むつ美さん



丸橋 弘子さん

リサイクル港 作業所



柴田 真由美さん



森井 照子さん

ゆたか生活支援 事業所みどり



みらいろ



岸上 陽樹さん



片野 千広さん

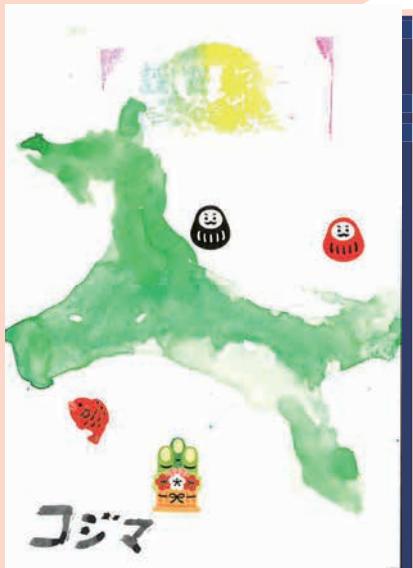


さくら班

キラリン と一緒に



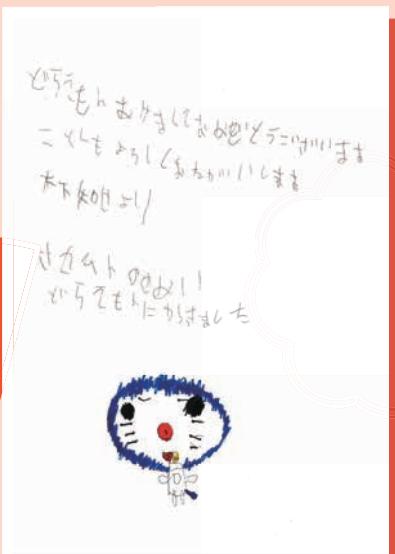
高木 麻有さん



小島 行雄さん



木下 和也さん



なるみ作業所



澤田 政人さん



榊原 慎太さん



藤本 英幸さん

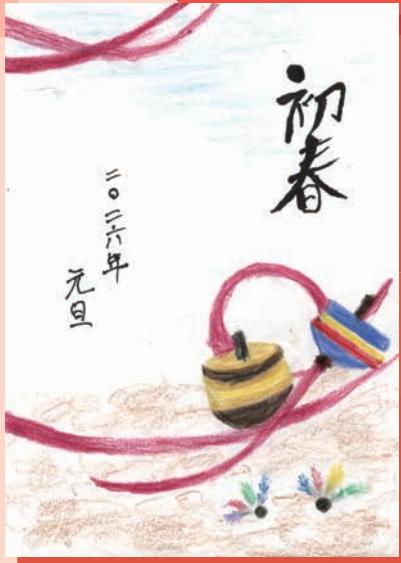


私たちの
メッセージを
お届けします



伊吹 紀子さん

デイサービス
宝南



水谷 都美子さん

ゆたか作業所



軽作業現場

2026年

謹
賀
新
年



磯部 和明さん



平岩 考之さん

